

第38回 愛知県鍼灸研修会参加報告

平成26年度 第62期 通算 第730回 日本鍼灸師会学術講習会主催
公益社団法人 日本鍼灸師会 共催 愛知県鍼灸専門師会 後援 厚生労働省

◆日時：平成26年4月13日(日)

◆会場：名古屋医療健スポーツ専門学校 4階142教室

◆第1部 13:00~14:30

演 題：「スポーツ科学から見たロコモについて」

講 師：松葉泰昌先生（名古屋大学総合診療科医師）

◆第2部 14:40~16:10

演 題：「散ずる鍼を尋ねて」

講 師：南谷旺伯 先生（みなたに おおはく）

講演内容：医道の日本に連載された「散ずる鍼を尋ねて」。

《参加感想》

第1講の松葉医師は、スポーツ科学の分野から鍼灸臨床で身に着けておくべき医学知識を、運動生理学の知見から遅筋と速筋の機能や作用機序の違いや、ロコモティブシンドロームの意味と、ロコモトレニングの正しい知識を解説していただきました。

メタボについては、体重を減らそうとすると筋肉量の減少を招きやすい。減量に成功してもリバウンドすることが少なくなく、リバウンドした場合増加するのは体脂肪であって筋肉ではない。

結果として減量前と比較した場合、“明らかな体組成の劣化”を引き起こしてしまうので、減量のためには「食事摂取量の減少による、筋肉量の減少を防ぐために運動をする」というスタンスが正しいことを教えていただきました。名大総合診療科、企業の産業医等々、多方面でご活躍の医師ならではの判りやすく楽しく講義でした。

第2講の南谷旺伯先生は、「散ずる鍼」の実技を中心にした講義。流れるような指の運びによる、刺入しない「散ずる鍼」はモデル患者も心地よく治療を受けられ、その場で痛みや関節可動域が改善し、なにより南谷先生の優しいお人柄による絶大な安心感は治療効果を高めていると実感しました。著名な臨床家でありながら、「散ずる鍼を尋ね続ける」という謙虚なその姿勢に感銘を受けました。

講演後は講師の先生、名古屋医健の教師、愛専会理事が参加して懇親会が開催されました。参加者全員の自己紹介をするなかで、「鍼灸は素晴らしい医療で、志を高くもった鍼灸師を育てたい」という、名古屋医健鍼灸科の先生方と、愛専会が同じ方向を目指していることを再確認することができ、良好な友好関係が築けていることを感じました。

学術部 長岡 亨



